

高齢者を取りまくコミュニティの実態（鹿児島県笠沙町の事例）その4 －高齢者のつき合いの広がりと外出行動にみる生活支援－

正会員○古川恵子*² 同 友清貴和*¹ 同 角征一郎*³

1. はじめに

本稿は、過疎化、高齢化が進行している地方地域で自立した生活を送っている在宅高齢者の生活の中で、近隣同士のつき合いや助け合いが、どの程度機能しているかを明らかにしようとするものである。

2. 研究の目的と方法

前報^{1), 2), 3)}では、1999年の調査の結果から、笠沙町の6集落における、主として高齢者と、別居の子ども・親戚・友人との交流状況、買物等の外出行動、日常の助け合い等について検討した結果、相違はみられず、生活支援につながる近所づきあいが行われていることが明らかになった。生活扶助に関することが端的に表れやすいと考えられるひとり暮らしの高齢者世帯を中心に分析した結果、日常的な生活の支援を子どもに期待できない状況下で、同じ地域の幼なじみや近所の友人、親戚と親しくつき合い、助け合っている状況が明らかになった。

2-1. 研究の目的 本稿は、これまでの結果をふまえ、高齢者のつき合いの広がりや外出行動を分析断として、支援の状況を把握することを目的とする。ここでいうつき合いとは、主として「日常生活における私的で自発的なものをいい、強制されるものではない」と定義する。広がりとは、友人数と友人の年齢幅、および集落外に居住する友人数についていう。

2-2. 研究の方法 前回調査の6集落に加え、地形特性からも分析するために、平坦地である集落を1つ追加し、新たなヒアリング調査を行った。調査対象世帯は、6集落については前回と同じ世帯とした。

3. 調査概要

3-1. 調査方法

調査期間は平成13年9月の4日間。7集落の人々に対してヒアリング調査を実施し、8月と11月に事前、事後調査を行った。主な調査内容は、①高齢者のつき合いの相手とその内容、②緊急時の支援、③外出行動とそれに対する支援、④集落の人のつながり、⑤身体

状況や施設利用、等である。回答者数は(92/117)人、回答率は78.0%である。回答者は1世帯1人で、世帯主か配偶者である。回答者がいづれであっても世帯としてのつき合いに関連するものとする。

3-2. 調査の対象と概要

笠沙町は、人口3,951人、高齢化率42.2%（平成13年）、町内に農・山・漁村集落を抱え、高齢化、過疎化の進んでいる町である。薩摩半島の西南端に位置し、周囲は東シナ海に面する典型的なリアス式海岸が続いている。調査対象集落は、1999年の調査集落に新たに野間池を追加し、市崎木場、松木場、高崎山、谷山、小崎、魚路の7集落とした。小崎と野間池が平坦地である以外は、傾斜地の集落である。市崎木場、松木場、高崎山、小崎、野間池は道路沿いに、谷山と魚路は、国道から300～400m入り込んだところに広がっている。

1. 市崎木場
2. 松木場
3. 高崎山
4. 谷山
5. 小崎
6. 魚路
7. 野間池

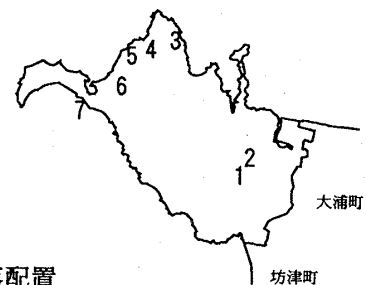


図1. 笠沙町対象集落配置

表1. 調査対象集落の概要

集落名	全人口(人)*	高齢化率(%)*	独居老人世帯比率(%)*	調査対象世帯数(世帯)
町全体	3,951	42.2	23.8	合計 92
市崎木場	57	52.6	20.0	15
松木場	74	62.2	37.8	17
高崎山	15	80.0	54.5	5
谷山	35	51.4	27.8	10
小崎	16	37.5	33.3	4
魚路	40	57.5	23.5	13
野間池	263	35.7	18.3	28

(*笠沙町資料2001年4月1日)

表2. 調査対象者の属性

調査項目	人(%)	調査項目	人(%)		
性別	男	27(29.3)	年齢	65歳以上～75歳未満	37(40.2)
	女	65(70.7)		75歳以上	48(52.2)
世帯類型	单身	33(35.9)	職業	65歳未満	7(7.6)
	夫婦のみ	29(31.5)		無職	67(72.8)
	親子	23(25.0)		農業	15(16.3)
	三世帯	6(6.5)		漁業	2(2.2)
	その他	1(1.1)		その他	6(6.5)
(各項目合計92人)			無回答	2(2.2)	

回答者は、後期高齢者が半数を超え、また、単身世帯が全体の約36%を占めている。

4. 調査結果と分析

4-1. つき合いの広がり

4-1-1. 友人の居住地

友人の居住地は集落内に多く、つき合いは近所単位でよくなされている。近隣集落へのアクセスの容易さの異なる2集落について以下に述べる。

(1) 幹線道路沿いに集落が広がり、近隣集落へのアクセスが容易な松木場

集落全体の友人数84人のうち、集落外の友人数が15人でそのうち13人は近隣の集落居住である〔表3〕。回答者との間柄は、以前近所だった、親戚、同級生がそれぞれほぼ同数である。高齢者が昔からのつき合いや転居後のつき合いを継続するには、他集落へのアクセスのしやすさが関連するといえる〔図2〕。

(2) 国道から300～400m入り込んだ所にあり、一部急傾斜地で、他集落に通じる道路のない魚路

集落全体の友人数65人のうち、集落外の友人数が2人である。国道から300～400m入り込んだ所にあり、車は途中までしか入れない。つき合いはこの集落の中で行われている〔図3〕。

(3) 国道下の急傾斜地にあり、集落が深い谷で二分されている高崎山

世帯数が少ない急傾斜地で、谷を挟んで集落が二つに分かれているために、双方を行き来する人は少なく、それぞれ離れた場所の中でつき合いがよくされている。

4-1-2. 友人の年齢と人数

友人の年齢とつき合いの内容との関係を見た。

友人の半数以上が10歳以下の年齢差であり、年齢の近い人とつき合いがよくされている一方、年齢差の最表3. 友人の居住地

	集落名*							合計
	1	2	3	4	5	6	7	
回答者数	15	17	5	10	4	13	28	92
集落内	49	69	14	42	13	63	86	336
隣の集落	10	3	1	0	1	0	12	27
町内	2	11	4	1	3	2	4	27
町外	0	1	1	1	0	0	1	4
合計	61	84	20	44	17	65	103	394
友人数の平均	4.1	4.9	4	4.4	4.3	5	3.7	4.3(人)

* 表中の集落の番号は図1の集落番号と対応

表4. 友人との年齢差

年齢差(歳)	～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	30～	不明	合計
人	152	102	65	37	19	8	10	3	396

(複数回答)

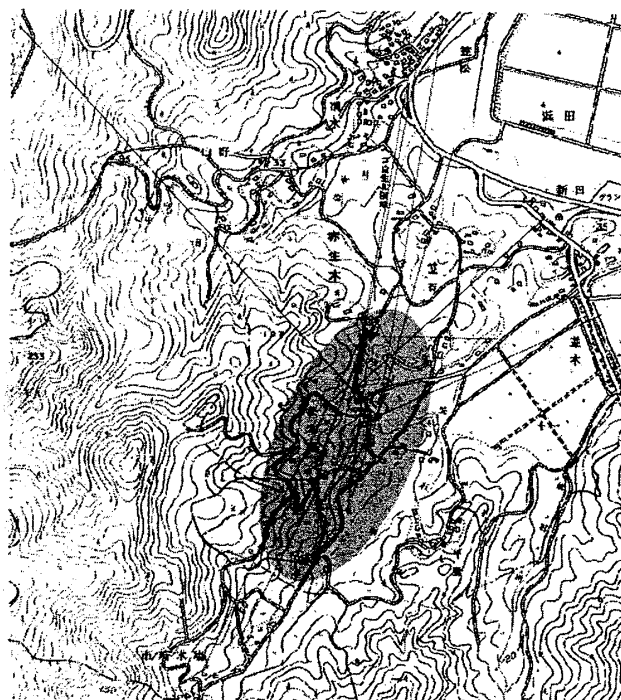


図2. 松木場と周辺集落におけるつき合い関係

- ・ 図2、図3のグレーの部分はそれぞれ松木場集落、魚路集落
- ・ 図2、図3の直線はつき合い関係を示す



図3. 魚路集落内のつき合い関係

大値は40歳で、全体として様々な年代の人とつき合いがされている〔表4〕〔表5〕。回答者との年齢が離れるにつれて、つき合い方に違いがみられた。特に後期高齢者は年齢の離れた若い人にしてもらうことが多く、元気が声を掛けてもらう、車に乗せてもらう、力仕事をしてもらう、緊急時に頼りになる等、多方面から支援されている。友人数の全体平均は4.3人である。

表5. 年齢別友人人数と友人の年齢 (65歳以上)

世帯類型	性別	年齢	友人数と年齢										友人数				
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
単		90	88														1
単		90	87	80	80	78											4
単		88	79	79	72												2
単		88	82	88	90	90											4
単		87	88	88	70	69	55										5
単		87	88	82	90	90											4
		86	82	83	78	72	72	73	71	75	75						9
*		86	70	70	70	72											5
単		85	45														1
単		84	68	65	55	50	60										5
*		83	66	55													2
単		83	78	73	71	67	63	62	59	45	45	45	45	45	45	45	10
単		83	80	63	67	55											4
単		82	80	60	60												3
単		82	78	74	76	76	65										5
単	*	82	78	78	92	69	65	63	55								7
*		81	83	80	76	74	65										5
単		81	82	80	81	68	66	69	66	62	59						9
*		81	72	70													2
*		81	78	82													2
単	*	80	81	72	59												3
		80	75	81	90	74	74	68	64								7
*		80	81	81	77	76	70	73	66								3
		80	83	75	73	69											4
		80	82	71	71	66	57										5
単	*	80	70	69	67												3
		80	72	74	74	66											4
単		79	73	88	70	40											4
単		79	86	77	92												3
単		78	74	63													2
*		78	74	74	79	80	84										5
単		78	81	65													2
*		78	80	80													2
*		78	70	71	71												3
		78	80	73	88	63	90										5
単		78	75	78	72												3
単		77	75	67	53	42											7
単		77	72	69	58	56	53										5
単		77	74	81	65												3
		77	72	65													2
単		76	73	67	66	45											4
単		76	82	60													2
		76	70	71	56												3
単	*	76	68														1
		75	72	78	65	86											4
		75	75	76	69												3
単		75	69	65	45												3
単		75	75	75	83	65											4
単		74	79	72	76	88											4
		74	72	76	80	88	60										5
*		74	76	76	67	67	61	46									6
		74	74	78													2
単		74	73	77	77	72	76	82									6
		74	69	75	72	74	73	65	56								7
		73	88	86													2
		73	78	67	66	82	85	61									6
		73	76	68	65	66	59	55	56								7
		73	68	65	65	80	61										5
		73	73	78	87	80	88	90									6
		72	72	80	60	58											4
		72	67	74	72	78	64	79	90								7
*		72	62														1
単	*	72	69	67	80	61	55	56									6
		72	74	67	68	80	86	83	83	51	46						9
		71	68	75	70	74	80	83									7
*		71	73	70	65												3
単		70	65	56	59	59											4
単		70	71	76	56												3
		69	65	73	88	94											4
*		69	72	67	78	63	88	52									6
単		69	67	73	76	58	63	48									6
*		69	71	72	79	62	80										6
		68	76	74	58	80	93										5
		68	73	65	69	58	59	56	82	80							8
*		68	64	68	68	78											4
*		68	68	68	68												3
単		68	76														1
		67	73														1
		67	71	69	73	76	74	77	74	50							8
		67	64	72	64	76	80	45									6
単		67	皆														5
		66	67	69	60	74	79										4
		66	67	74	58	73											4
*		65	65	60	60	69	57	73	78								7
		65	70	62	88												3

・年齢差を濃淡で表す。
 ・世帯類型欄の単は単身世帯を表す。
 ・性別欄の*は男性を表す。

4-2. 単身, 夫婦世帯に対する緊急時の支援

緊急時に頼れる最も近い友人が集落内にいると回答している人は、単身世帯で (25 / 33) 人、夫婦世帯で (17 / 30) 人である。高齢者の多くが、いざという時にすぐに駆けつけてもらえると考えられる。夫婦世帯のうち、配偶者のみをあてにすると回答した世帯が5世帯あった〔表6〕。頼れる人として集落内の人をあげなかった人でも、近所の人と、道端で声をかけあったり、互いの家を行き来して作った野菜や料理のやりとり等をしていて、日常的に近隣住民とつき合いをしている。また、集落によっては、主事が安否確認を行っている。

表6. 緊急時に頼れる最も近い人の居住地

家族形態	集落内			町内	近隣町	県内	その他	なし	合計
	隣	近所	その他						
夫婦世帯	5	12	0	4	2	1	1	5	30
単身世帯	8	15	2	1	2	2	1	2	33

表7. 単身世帯と夫婦世帯のつき合いの内容

	してあげること			してもらうこと		
	単身世帯 人 (%)	夫婦世帯 人 (%)	全体 人 (%)	単身世帯 人 (%)	夫婦世帯 人 (%)	全体 人 (%)
精神的つき合い						
1. 元気か声をかけたり、様子を見たり	2(87.9)	26(86.7)	31(88.0)	30(90.9)	25(63.3)	79(85.9)
2. 相談したり、されたり	3(39.4)	4(46.7)	10(43.5)	8(54.5)	15(60.0)	16(50.0)
3. 不安や心細い時の話し相手	3(39.4)	1(36.7)	4(37.0)	5(45.5)	8(26.7)	13(35.9)
4. 寂しくて人と話をしたい時の話し相手	1(33.3)	9(30.0)	10(32.6)	1(33.3)	7(23.3)	9(31.5)
物理的つき合い						
5. 作った野菜や花をあげる	6(48.5)	23(76.7)	53(68.5)	21(63.6)	24(80.0)	70(76.1)
6. 料理やいたきもののおすそ分け	6(48.5)	16(53.3)	46(60.0)	20(60.6)	16(53.3)	52(56.5)
7. 代わりに買い物	3(9.1)	3(10.0)	11(12.0)	8(24.2)	1(3.3)	13(14.1)
8. 力仕事の手伝い	2(6.1)	3(10.0)	7(7.6)	9(27.3)	5(16.7)	18(19.6)
9. 病気のときの看病	4(12.1)	2(6.7)	8(8.7)	5(15.2)	1(3.3)	10(10.9)
10. 病院への付き添い	2(6.1)	2(6.7)	4(4.3)	6(18.2)	0(0.0)	8(8.7)
11. 車に乗せてあげる、もらう	1(3.0)	9(30.0)	4(15.2)	8(54.5)	7(23.3)	17(40.2)
12. 郵便物を出してあげる、もらう	1(3.0)	0(0.0)	1(1.1)	1(3.0)	0(0.0)	3(3.3)
13. 乗をとってきてあげる、もらう	1(3.0)	1(3.3)	2(2.2)	1(3.0)	1(3.3)	3(3.3)
14. 配達物をおすそ分け	2(6.1)	2(6.7)	5(5.4)	1(3.0)	3(10.0)	6(6.5)
15. 葬儀の手伝い	2(36.4)	15(50.0)	50(54.3)	9(27.3)	7(23.3)	29(31.5)
16. 不在の時の花の水やり	1(3.0)	2(6.7)	6(6.5)	3(9.1)	4(13.3)	10(10.9)
17. 食事をいっしょにする	4(12.1)	6(20.0)	2(13.0)	5(15.2)	3(10.0)	11(12.0)

5. 外出行動支援

通院と買い物の外出行動における支援状況を分析した。

5-1. 通院

通院する医療施設の所在地は、居住集落の位置により異なる。市崎木場と松木場の居住者は、隣の大浦町や加世田市に通院している人が多い。一方、野間池診療所へは、野間池や魚路など近距離から通院する人が多い。病院を利用していない人は (13 / 92) 人いる〔表8〕。連れ立って一緒に病院へ行く人は、(33 / 79) 人である。その相手の内訳は (配偶者: 9人, 子: 10人, 親戚: 2人, 近所の人: 12人) である。野間池診療所は、近距離からの通院者が多く、1人で行く人が多い。

連れ立って行く理由は、足が悪い、体が不自由等、身体的な理由が多い。車がないという理由もあった。

5-2. 買い物

野間池以外の6集落は店舗がないので、集落外へ買い物に行くほかに、移動販売や配達を利用している。買い物先も、通院と同様に居住集落により異なる。市崎木場や松木場の居住者は、隣の大浦町へ買い物に行く人が多い。一方、野間池には、農協や商店等、購買施設が3箇所あり、野間池や、魚路などの近距離や、小崎、谷山からも行く。加世田まで買い物に行く38人の中には、病院の帰りに寄ると答えた人もいた。連れ立って行く人は、全体で25人である。特に、加世田へ行くと答えた38人のうち17人が連れ立って行っており、遠くへ買い物に行く際には、多くの人が支援を受けていることがわかる。相手の内訳は、多い順に子供、友人、配偶者である。一緒に行く理由は、車がないが最も多く、体や足が悪い等身体的な理由、近所で仲がよいからという答えもあった。家族に加えて近所に住む健康な高齢者や若い世代の人が、車に乗せてあげて、高齢者や交通弱者の人を支えている。

移動販売利用者は47.8%で、その多くは2~3回/週の利用頻度である。配達を利用する人は42.0%、利用頻度は1回/月が最も多い。いずれも必要な方式である。

表8. 医療施設所在地と連れ立っていく人数

通院先	集落名*							合計	連れ立っていく人
	1	2	3	4	5	6	7		
加世田市	7	9	3	2	2	4	5	32	17
大浦町	7	3	0	0	0	0	0	10	7
小浦	1	2	3	3	1	2	2	14	8
野間池	0	0	1	2	1	4	18	26	3
鹿児島市	0	0	0	1	0	1	1	3	1
吹上町	0	0	0	0	1	0	1	2	1

* 表中の番号は図1の集落番号と対応

表9. 買い物先所在地と連れ立っていく人数

買い物先	集落名*							合計	連れ立っていく人
	1	2	3	4	5	6	7		
加世田市	7	9	3	2	2	4	5	38	17
大浦町	7	3	0	0	0	0	0	12	7
赤生木	1	2	3	3	1	2	2	19	8
小浦	0	0	1	2	1	4	18	5	3
片浦	0	0	0	1	0	1	1	3	1
野間池	0	0	0	0	1	0	1	46	1

* 表中の番号は図1の集落番号と対応 (買い物先, 連れ立っていく人, 共に複数回答)

- ※1 鹿児島大学教授・工博
- ※2 鹿児島女子短期大学教授
- ※3 鹿児島大学大学院 博士前期課程

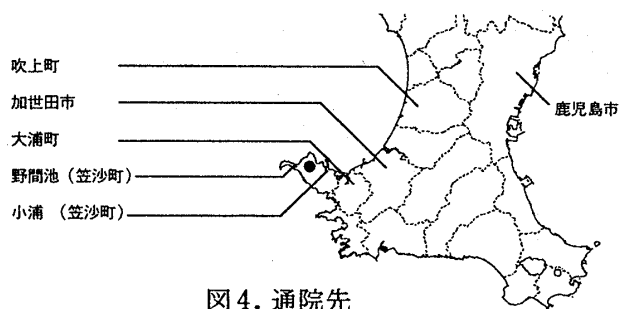


図4. 通院先

6. まとめ

集落間の道路によるアクセス状態からつき合いの広がりを見ると、①つき合いは主に近所で行われる。②他集落へアクセスしやすい集落（松木場、市崎木場、野間池）では、近隣集落の友人とのつき合いが見られる、③主要道路から入り込んで他集落への道路がない集落や、世帯数の少ない集落では、つき合いは集落内で行われる、④谷で二分されている集落では双方の行き来が少ない、ということが確認された。また、友人の年齢と人数から見ると、⑤高齢者は、年齢の近い人とも年齢の離れた人ともつき合いがあり、後期高齢者は若い人からしてもらうことが多い、⑥友人数には幅があり友人数と年齢は関係ないということがわかった。

以上、集落の地形特性によりつき合いの広がり異なることと、元気か声を掛け合ったり、話をするなどの精神的なつき合いや、自分で作った花や野菜のやりとり、料理のお裾分けなどの物理的なつき合いが、複数の友人の年齢の広がりの中で多く行われており、また、バスで約1時間の所までの通院や買い物の外出行動における生活支援が、近所の同年代の高齢者や若い年代の人により行われていることが明らかになった。

【注】

- 1) 古川、友清：高齢者をとりまくコミュニティの実態（鹿児島県笠沙町の事例）九州支部研究報告第38号 1999.3
- 2) 古川、友清：高齢者をとりまくコミュニティの実態（鹿児島県笠沙町の事例）その2.九州支部研究報告第39号 2000.3
- 3) 古川、友清：高齢者をとりまくコミュニティの実態（鹿児島県笠沙町の事例）その3.九州支部研究報告第40号 2001.3
- 4) 古川、友清：農村地域の高齢者福祉を視野に入れた交際関係の分析。農村計画論文集第3集.2001.12

【参考文献】

- 1) 玉里恵美子：山村再生 21世紀への課題と展望。村落社会研究34. pp36-47.1998
- 2) 染谷淑子：過疎地域の高齢者。学文社.1997

Prof.,Dept.of architecture,Kagoshima univ,Dr.Eng
 Prof.,Kagoshima Women's Junior College
 Graduate school,Dept.of architecture,Kagoshima univ